

久米島町の移住・定住推進における課題に対する対策案

島ぐらしコンシェルジュが移住・定住推進活動を行う中で、以下の課題が見えてきました。それぞれの課題は独立したものではなく、お互いに重なり、絡み合っているものですが、大きく「しごと」「住まい」「くらし」の3つのカテゴリーに分け、さらに対策案を掲げました。

各対策案の中から、自分が任期中に取り組みたいものを選択し、取り組みたい理由、取り組み内容について回答してください。

参考資料は必要に応じて利用することとし、記述形式は任意とします。

1. 「しごと」に関する課題

安定した雇用、やりがいなど、移住・Uターンを推進する上で、しごとは重要な項目のひとつである。しかし、久米島町内の求人には限りがあり、職種・待遇面で求めているものがないことが移住・Uターンの障害のひとつとしてあげられる。

2018年、町外への転出者向けにとったアンケートでは、「不十分さを感じたこと」という項目では、2位に「自分の専門性・スキルを活かせ、成長できる仕事」、5位に「長期的に安定した雇用」が挙がっていた。

しごと・対策案① 企業改革・求人マッチング

島内企業は「求人を出しても応募が来ず、働き手が見つからない」という一方で、移住希望者からは「職種・待遇面で求めているものがない」という声がある。

企業は求める人材を確保するには、生産性の向上を図り、雇用条件や待遇について見直す必要があると考えられる。現代のニーズに合わせた雇用について企業への提案と同時に、求職者と企業とのマッチングも求められている。

しごと・対策案② 起業・創業の推進

「職種・待遇面で求めているしごとがない」という場合の解決策の一つとして、現在久米島にはないしごとを創り出す、起業・創業が挙げられる。国のまち・ひと・しごと創生総合戦略でも、地域での創業を促進する策が多数織り込まれている。移住希望者だけでなく、既に島に住んでいる方向けや、中高生への起業家教育等、創業に対する理解関心を深め、創業希望者を増やす取り組みが必要である。

しごと・対策案③ 企業の誘致

働き方改革による企業のテレワークの導入が進む中、ワーケーションやサテライトオフィスの推進等、島外の企業をターゲットとして久米島に誘致することで、雇用機会の確保や地域の活性化を図りたい。

現在久米島町には企業誘致の担当者はいないが、企業が求めるものについて情報を収集し、推進してほしい。

しごと・対策案④ その他

その他、久米島町が抱える「しごと」に関する課題への対策について自由に考え、提案してほしい。

2. 「住まい」に関する課題

住まいは、仕事と同じく移住・Uターンを検討する際の重要な項目のひとつである。久米島町には民間経営のアパートが約 100 棟あるが、不動産屋のホームページに掲載されている空室は少なく、希望の部屋を見つけることが難しい状況となっている。

ペット可物件、広さ、一軒家等、住まいに関するニーズは多様化してきており、久米島町が移住・定住を推進する上で、これらに応えられる環境を整えることは重要であると考えている。

住まい・対策案① 空き家の利活用

町内には空き家と思われる家がたくさんある一方で、島ぐらしコンシェルジュが運営する空き家バンクには 1 件も登録が無い状態が続いている。その要因の一つとして、相続登記が適切になされておらず、所有者が不明、もしくは権利者が多すぎて動きが取れない状態であることが考えられる。

久米島町は今年度、空家調査の実施・空家対策計画の策定を進めており、また、島ぐらしコンシェルジュには本土で不動産業経験のある新メンバーが入り、空き家対策への取り組み姿勢を強化してきているが、さらなる推進を求めている。

住まい・対策案② 新しい住まいの提案

シェアハウスやルームシェア等、本土では一般的に認知されている住まいの形態も、まだ久米島では普及しているとは言えない。また、「アドレスホッピング」や多拠点居住等、住まいの概念自体が変化してきている。

今後の社会情勢を見据え、新たな住まいを提案・設置することで、これまでになかった層の人々を誘致し、活気を生み出すことが期待できる。

住まい・対策案③ その他

久米島町が抱える「住まい」に関する課題への対策について、コンテナハウスやアースバック等、安価で特徴ある新しい建築方法も視野に入れて、自由に考えて提案してほしい。

3. 「くらし」に関する課題

何度も久米島を訪れている人でも、住んでみると観光で来ていた時とはまた違う印象を持つものである。それが心地よいと感じるか、不快と感じるかは、住んでみないとわからない部分が多く、移住・定住の障害になっていると思われる。

また、毎年 100 人規模で人口が減少しているという状況は、島の随所で活気を徐々に失わせている。

くらし・対策案① 定住支援の強化

島ぐらしコンシェルジュでは、移住した方が地域に馴染めるようなサポートも行っている。区長への紹介や、茶話会の開催等が主な内容であるが、島ぐらしコンシェルジュ自身が関わっている方が限定的であるため、十分な支援ができていないと考えている。移住してきた方と地域の方が共に理解しあって暮らせるようなしくみが必要である。

くらし② ICT の推進

企業が業務改善・効率化・生産性の向上を図る上で、ICT 活用は必要不可欠となっている。しかし、ICT への理解・活用については一つの企業内でも個人差が大きく、活用が十分であるとは言えない状況である。個人間でも ICT を活用することで、島内外に住む友人・親族とコミュニケーションがとりやすくなり、生活がより便利で楽しくなる等の効果が期待できる。

久米島町のような離島にとって、ICT の推進は創業のチャンス、起業・組織改革の推進、より豊かな暮らしの創出等、様々な可能性を持っているが、学ぶ機会がないという要因によって進んでいないのが現状である。

くらし・対策案③ 空き店舗の利活用

久米島町の大田・仲泊地区にある商店街（新興通り・中央通り）は、飲食店や衣料品店、民宿、スーパー等が集積している商業地帯であるが、ここ数年閉店する店舗が多く、シャッターが目立つようになってきている。

最近、閉店していた元土産店がコワーキングスペースとしてオープンすることとなった。これを好機に、空き店舗を活用した移住定住促進の仕組みづくりが求められている。

くらし・対策案④ その他

移住者が 3 年後に転出してしまう「3 年の壁問題」、アパートのない地区の高齢化率が高い現状、地域内の経済が循環せずに「漏れバケツ」となっていること、周辺離島と同様な外からの開発が行われた場合、それを防げる体制が整っていないこと…。

久米島町が抱える、様々な「くらし」に関する課題への対策について自由に考え、提案してほしい。

■参考資料

- ・ [第2次久米島町総合計画](#)
- ・ [久米島町まち・ひと・しごと創生総合戦略／久米島町人口ビジョン](#)
- ・ [久米島町移住・定住促進アクションプラン](#)
- ・ [移住希望者動向調査レポート 2018](#)